

自己点検・評価報告書

令和7年3月31日現在

北九州情報 IT クリエイター専門学校

(令和7年6月30日作成)

責任者 三好 一哉
記載者 伊原 崇

目 次

基準 1	教育理念・目的・育成人材像	1	5-18	学生相談	23
1-1	理念・目的・育成人材像	2	5-19	学生生活	24
基準 2	学校運営	3	5-20	保護者等との連携	25
2-2	運営方針	4	5-21	卒業生・社会人	26
2-3	事業計画	5	基準 6	教育環境	27
2-4	運営組織	6	6-22	施設・設備等	28
2-5	人事・給与制度	7	6-23	学外実習、インターンシップ等	29
2-6	意思決定システム	8	6-24	防災・安全管理	30
2-7	情報システム	9	基準 7	学生の募集と受入れ	31
基準 3	教育活動	10	7-25	学生募集活動	32
3-8	目標の設定	11	7-26	入学選考	33
3-9	教育方法・評価等	12	7-27	学納金	34
3-10	成績評価・単位認定等	13	基準 8	財務	35
3-11	資格・免許の取得の指導体制	14	8-28	財務基盤	36
3-12	教員・教員組織	15	8-29	予算・収支計画	37
基準 4	学修成果	16	8-30	監査	38
4-13	就職率	17	8-31	財務情報の公開	39
4-14	資格・免許の取得率	18	基準 9	法令等の遵守	40
4-15	卒業生の社会的評価	19	9-32	関係法令、設置基準等の遵守	41
基準 5	学生支援	20	9-33	個人情報保護	42
5-16	就職等進路	21	9-34	学校評価	43
5-17	中途退学への対応	22	9-35	教育情報の公開	44

基準 10	社会貢献・地域貢献	45
10-36	社会貢献・地域貢献	46
10-37	ボランティア活動	47

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。

■教育信条

将来の社会発展のために、学習意欲がある全ての世代の方に学習機会を提供し、将来の社会発展・平和に寄与できる人材を育成する。

■教育目的

「簿記、税務、情報処理、法律、行政、医療、保育、福祉、スポーツ、製菓、美容、歯科衛生、自動車整備並びにこれらのビジネス等に関わる教育及び人格の陶冶を行い、有為な産業人を育成する」ことを目的とする。

■次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。

1. 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる
2. 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる
3. マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる

この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした附帯教育を二本柱にしながら、資格取得教育を中心に実務に対応できる人材の育成を行っている。

これらの教育理念・目的・育成する人材像は、大原学園ホームページなどで周知徹底されている。その教育理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	定めている	学園の教育理念が具体的な言葉で明文化されており、目的や人材育成像も明らかにしている。	特になし。	・ディプロマポリシー
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	70%	学科ごとに教育目標、将来像を明確にするとともに、企業と連携した実習・演習を実施している。	今後も業界ニーズの把握に努め、常に時代の変化に対応できる人材育成を目指し、教育目標の見直しを図っているが、実際の到達度合いには学生間の差異があり、具現化する手法には更なる精査が必要である。	・コースガイダンス資料 ・就職ガイダンス資料 ・実習資料 ・各種コンテスト
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	80%	入学から卒業までの教育期間を3段階(4期)に区分し、(1)成功体験期、(2.前期)専門学習期、(2.後期)実践期、(3)入社準備期の三段階(4期)に区分して教育を実践し、「就職」と「資格取得」において一定の実績を残している。	入学生の学力や意欲、業界ニーズ等の情報収集・分析を行い、その時代にマッチした特色ある教育カリキュラムの研究を行い、段階的にはあるが、実現できている。	・大原学園ホームページ ・各種ガイダンス資料 ・公務員の服務と倫理
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	80%	地域・教育内容に関するニーズ意識し、中長期での新規コース設置や教育の見直しを継続している。	教育へのニーズをよりスピーディーに調査・分析を行い、教育に取り入れる柔軟性が必要であるが、社会・業界のニーズは非常に目まぐるしく変化しており、まずは正確に捉える努力が求められる。	・事業計画書等 ・学校関係者評価報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念・目的は周知徹底されている。学園の特色の一つが『教育ストーリーを3段階(4期)に区分』して実施することである。「就職」と「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成できている。資格取得と就職実績、および実習教育の充実に向け、社会のニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。	全国に多数の学校・教育分野を設置している学校法人であるが、教育理念については、(1)様々な会議や研修を通じて(2)イントラネットの活用(3)ホームページで全教職員に配付され、周知徹底されている。
【達成度合の評価】 0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価	

基準 2 学校運営

大項目総括

意思決定システムが確立されており、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。また、その内容は全体朝礼およびイントラネットやグループウェアにて速やかに告知するとともに各部署で周知徹底している。

学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的にその内容と進捗とを確認し、必要に応じて支援や計画の修正を行っている。組織および教職員の業務分掌も明確に規定されている。

人材の育成では、職能等級制度やC & D 目標管理制度などの人材育成・処遇システムがあり、能力や職位に応じた適切な研修を実施している。特に教育の基盤をなす教員においては定期的・段階的な指導力向上研修を実施している。また、そのための人事関連の規定は明文化され、全教職員に配付されている。

※C & D = Communication & Development

2-2 運営方針

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	定めている	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で定められ、その方針の下で各学校では校長を中心とした各種運営会議を設置している。	運営方針の教育現場への浸透度合いについては、継続的に点検する必要がある。	・理事会決議録 ・評議員会議事録 ・事業計画書 (目標達成プログラム) ・各種運営会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。 教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

2-3 事業計画

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	定めている	毎年度、目標達成のための事業計画（目標達成プログラム）を作成している。また、各部署の定例会議において、事業計画との差異を継続的に確認し、適時対応している。 期中および年度末には目標達成度合の振り返りを行い、学園全体で共有している。	学校全体での目標の共有化を更に推し進める必要がある。	・ 事業計画書（目標達成プログラム） ・ 各種会議議事録と資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。 教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。	事業計画は個々の教職員の職務基準の設定（業務および目標）と密接に関連しており、学校の目標達成の可能性を高めている。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

2-4 運営組織

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	90%	組織運営は適切である。理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に開催し、必要な審議を行い、記録に残している。	特になし。	・理事会決議録 ・評議員会議事録 ・運営会議議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	90%	職務分掌と責任に関する規定があり、教職員に配付されている。また、運営組織図はイントラネットなどを通じて職員に配付されている。	特になし。	・諸規則集 ・組織及び職務分掌 ・運営組織図

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会・評議員会で決議された内容は、事業部長・校長の参加で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。	特になし。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-5 人事・給与制度

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	90%	職種別職能等級制度および人事考課規程を定めており、適性や考課に基づいて昇進・昇格・採用・異動など人事システムを通じて適正な運用を行っている。また、新入社員研修、等級研修、新任管理者研修などの各種研修により人材育成にも力を入れている。	現況に合わせた人事システムおよび各種帳票様式の見直しを継続的に行う必要がある。 また、職種別職能等級規程および人事考課制度規程は、運用しながら実情に則して見直しを図る必要がある。	・諸規則集 (人事考課制度規程／職能等級規程／給与規程・退職金規程) ・等級研修テキスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。	育成に関しては職能等級制度およびC&D目標管理制度の下で能力や職務に応じた適切な研修を実施しており、さらに教員においては定期的・段階的な指導力向上研修を実施している。 また、受動的な研修に終始せず、幅広く思考・議論する研修を機会を導入し、能動的な成長機会を創出している。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-6 意思決定システム

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	90%	理事会・評議員会・学校運営会議など階層ごとの意思決定システムが存在しており、それぞれの意思決定者とその職務や権限も明確にされている。	特になし。	・諸規則集 ・組織及び職務分掌 ・理事会決議録 ・評議員会議事録 ・運営会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。	特になし。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-7 情報システム

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-7-1 情報システム化に 取組み、業務の効率化を 図っているか	80%	学生管理・授業料管理・人事給与管理など多くのシステムを導入して、正確で迅速な対応を可能にし、業務の効率化が図られている。 令和6年度は、時間外勤務申請用の新たな内製システムを試験導入し、業務の効率化を図る取り組みを行っている。	法改正への対応や、業務効率の向上および入力等事務業務の軽減を図るため、関係部署と協同し、既存の各種システムの見直し、新規内製システムまたは外部パッケージシステムの導入を検討し、整理統合を図る必要がある。	・各種システム運用マニュアル等

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。役目を終えたシステムなどが残されており、また、業務に応じ、その都度開発されてきた各種システムが存在しているため、これらの整理統合に取り組んでいる。	主な管理システムは学園全体で導入しており、システム開発は学園内部の情報システム部門が担当している。そのため、現場のニーズを充分に取り込んだシステムとなっている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 3 教育活動

大項目総括

本校の教育目標・育成人材像は、業界が求める人材像を目標として体系的に教育課程が編成されている。

入学時より各学科において、「入社後、即戦力として活躍する」ために必要な人材になることを目標とし、そのために必要なスキル習得必要性の動機付けを行っている。卒業までの教育期間で行う資格試験などの目標を明確にすることで、学習意欲向上を図っている。

今後も業界ニーズの把握に努め、時代の変化に対応できる教育目標を立てていきたい。

また、スキル習得にあたっては、各種検定試験・資格習得・技術習得を目標として、体系的な教育課程を編成している。各科目の教育期間においてもテストなどの実施により学生が習得状況を実感できる機会を設け、「日々成功体験が実感できる」教育課程を作成している。

今後も検定試験の変更や入学生の学力変化に対応できるように、定期的な見直しを図っていきたい。

3-8 目標の設定

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	定めている	学園の教育理念が具体的な言葉で明文化され教職員への周知がされている。 入社後、即戦力として活躍する人材の育成を達成するため、時代のニーズに合わせた教育課程編成や、コース設定を行っており、大原学園ホームページでも広く公表している。	特になし。	・ディプロマポリシー ・大原学園ホームページ
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	明確にしている	各学科で入学段階にてガイダンスを実施し、教育目標、将来像を明確にしている。	特になし。	・コースガイダンス資料 ・就職ガイダンス資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 また、各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	入学段階のガイダンスで、各学科の教育目標、育成人材像を明確に伝えることで、その後の学習に対する意識向上に役立てている。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

3-9 教育方法・評価等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	80%	入社後の即戦力として活躍出来る人材を輩出するため、外部委員による教育課程編成委員会を開催し教育課程編成を継続している。	教育課程編成委員会の充実化をはかるべく、委員会の運営の方法を検討し、柔軟に取捨選択する体制を維持する。	・教育課程編成委員会議事録
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	80%	企業等委員から提示された課題や提案については、関係学科で検討の上、次年度以降のカリキュラム編成作業を進めている。	教育課程編成委員からの提案及びその他企業からの情報を基に専門性・社会性双方の面から教育プログラムを見直している。	・事業計画書 ・学習カリキュラム
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	70%	学生一人一人の社会的、職業的自立にむけ、学ぶこと、働くことの大切さなどガイダンスを適宜実施している。専門学校ではあるが、就職がゴールとにならないよう心掛けている。	入学から卒業まで継続的に、実務者や専門家の外部講師を招聘し、法律の講義と演習、街づくりや災害対策に関する演習授業に加え、税制度や服務規程など幅広い講義を提供できる様に進めている。	・事業計画 ・教育課程編成委員会議事録 ・各種実習資料 ・公務員の服務と倫理
3-9-4 授業評価を実施しているか	70%	学生アンケートにより、授業の満足度のみならず、講師の質や施設の充実度まで確認を行っている。	分析・評価の手法や、その位置づけを明確化することが重要である。 また、よりタイムリーに確認・反映できる様、簡易調査の導入も予定している。	・授業アンケート ・学生満足度調査

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、業界団体、関連企業等と協力した検討会によって毎年見直しを図っている。学生に対しても定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善を図っている。	理解しやすい項目から体系的にステップアップできる内容で構成され、科目ごとに段階的に設定されたミニテストで理解度を学生が認識できるようになっている。ミニテストの得点は在校生ポータルシステムで管理され、学生は自身の得点推移を確認することができる。
【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価	

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	80%	ガイダンス等での告知を行い、科目毎に統一的な試験を実施し、事前に定められた評価基準に沿って評価を実施している。	成績評価・修了認定基準は、大原学園ホームページでシラバス等の公開を行っている。公正さを維持するため、公開する内容と実態に齟齬が生じない様、チェックと修正を行っている。	・大原学園ホームページ ・学生便覧 ・シラバス
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	80%	実習・実技系科目においては実戦形式の効果測定を実施している。評価基準を明確にし、評価が客観的かつ妥当性の高いものになるよう毎年見直しを図っている。	客観性・妥当性の高い内容評価基準の確立には外部評価が必要。さらなる企業・業界団体の協力体制の構築に努める。	・実施要項 ・シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定は学生便覧、シラバスに明記し、告知されている。 また、学則運用に関する規定・成績処理マニュアル、学生管理マニュアルを作成し、適切な運用に努めている。客観性・統一性・妥当性の確保のため、定期的に外部意見の反映にも努めている。	単位互換に関して、当校で実施した科目を他大学等で認定する制度が実施されている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	80%	入学案内パンフレットおよび入学後の各種ガイダンスにて常に明示し、目標として意識づけを行っている。	目標とする資格・免許の取得意義が労働力需要と一致しているかの定期的な見直しが課題。	・入学案内パンフレット ・ガイダンス資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	80%	全科目・全教科につきテキスト・問題集・テストを準備している。また、日々のチェックテスト・各種答案練習など資格取得のための万全の体制を整えている。	授業担当者の指導にばらつきが出ないよう教員間の授業力向上のための研修を実施している・	・入学案内パンフレット ・各科目の使用教材

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得の指導体制については一定の水準は維持できている。指導体制が長期的に維持できる内部研修やジョブローテーションを行っている。取得率の向上を目指して、再チャレンジしやすい管理体制の構築に努めている。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

3-12 教員・教員組織

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	70%	採用計画に基づき、教員は確保できている。しかし、年々、採用活動が困難になっている実感はある。	専門性を有する人材の採用が必要であるため、様々な採用ルートを模索していく。	・求人票、募集要項 ・基礎能力検査
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	80%	採用前・採用後に新人研修を行い、模擬授業を実施している。模擬授業に関しては偏りが無いよう、年に3クール、全国の新入教員に対し、各教育事業部・各校管理者・全国の専門職教員によってチェック・指導を行っている。 また入社後も期間をおいて、授業の質を向上するための研修・モラル向上のための研修を行っており、新人研修から段階的に授業の質を向上できるよう一貫性のある育成体制を整えている。	新入教員・若手教員に対しては、(1)講義スキル、(2)学生指導手法、(3)それらの習得上のチェックなどを行っているが、中堅・ベテラン職員への機会提供が課題となっている。 また、授業や指導の評価に関し、今後はよりタイムリーに状況を把握し、改善するため、簡易的な調査を導入し、現実把握→課題改善へと繋げていく。	・授業アンケート ・教職員研修規程 ・各種指導マニュアル
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	90%	事業計画等でそれぞれの業務分担を明確にするとともに、教育に関する組織的な連携や情報共有も行われている。	特になし。	・事業計画書等 ・業務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価方法は確立されている。目的を共有するために事業計画書を、役割を明確にするために業務分掌が作成されている。	特になし。
【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価	

基準 4 学修成果

大項目総括

本校の教育成果については、大きな柱である「就職」「資格取得」とともに当初の目標を十分に達成できており、かつ向上を図るためのデータ収集と継続的な検討を重ねている。

就職に関しては、内定獲得ではなく、「入社後、即戦力として活躍する」事を目標として、入学当初より動機付け及び指導を行っており、その集大成として入社準備教育の開発を行ってきた。今後も企業側のニーズに基づき内容等の充実を図るとともに、単なる内定実績に留まらず、実践力の強化に焦点を充てた教育内容の強化に努めたい。

各種検定試験・資格取得に関しては、近年の政治・経済情勢のめまぐるしい変化に応じて、試験傾向や試験範囲だけでなく、試験制度そのものの変更が行われるケースも増えている。このような状況の中で、継続的・安定的な合格実績を達成していくために、変化に対応した教材やツールを開発するとともに、学生を合格に導くための知識・指導力を身につけた担当者の育成に力を入れていきたい。

4-13 就職率

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	80%	目標設定。就職希望者数、就職者数及び、各コースにおける就職率の把握はできており、学内実施の各種就職説明会が内定に繋がっている。 また、学園本部にて全国同一の就職サポートシステムで就職活動状況の一元管理を行い、各校の達成状況をリアルタイムに確認している。	就職希望者の希望と求人内容のミスマッチが課題。特に地元優良企業への就職希望者増加に伴う需要と供給のバランス改善が早急に求められる。地元就職を目的とした企業との関係構築や時代の変化に伴う職種内容の変化に対応できる人材育成が必要。	・入学案内パンフレット ・就職サポートシステム ・就職ガイドブック

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職希望学生への就職指導においては、教員及び就職部スタッフが個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。 また、それらの達成状況（就職率）は就職サポートシステムを通じて管理されている。	・フリーター、非正規雇用の進路決定者を出さない。 ・内定獲得ではなく、入社後の業務を意識した実践教育を実施。 ・学生の希望を確認しながら、適性に合った企業選びを実践。 ・担任が各学生の進路相談から受験指導、進路決定まで担当。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

4-14 資格・免許の取得率

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	90%	資格取得者を多く輩出するために学習カリキュラムや教材, 指導方法を研究している。	特になし。	・事業計画書 ・在校生システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。一部高度な国家試験等を除き、大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	一部のみ 実施	企業担当者より情報を収集して状況を確認している。一定の割合で把握ができているが、状況確認（在籍・離職）が中心となっている。	全学生の状況を確認する仕組みが確立されておらず、全卒業生の状況把握が課題。卒業後数年は状況が把握できる仕組み作りが課題。また、状況確認が中心で社会的評価を把握する仕組みづくりも課題。	・入社後アンケート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
訪問による企業担当者からの状況把握は一定の割合で継続的にできている。状況確認が主となり、全体的に社会的評価を把握できる方法の開発を進めている。	・収集した情報を進路指導及び教育プログラムに反映。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 5 学生支援

大項目総括

学生の教育の充実を図ると共に、さまざまな面でのサポートの充実も学園生活では大切なことであるが、これらも含めて概ね学生の満足が得られている。

就職支援、学生相談、経済的支援、健康管理、課外活動等、学生支援の体制が整っている。

カウンセラーや健康相談など、専門的な人材が必要とされるような傾向が社会的にあるが、現状担任との結びつきを強め、個別相談や就職相談などを行っている関係上、専門的な人材が現在の教育体制の中で必ず必要か否かは、明確ではない。将来的には、社会的な動きやニーズから検討していく必要はある。

ご家庭との連携をベースに学生指導を行う体制となっている。

卒業生への支援は、同窓会が存在していないが、卒業生のニーズと帰属意識および学校としての有用性を鑑みて、検討していくものである。求人斡旋では卒業生のために卒業生サイトにて中途求人紹介等の案内を行っているが、活用度合いはあまり高くない。今後活用しやすくなるよう工夫していく必要がある。

5-16 就職等進路

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	80%	入学から卒業までのカリキュラムが整備されており、担任制度の下、具体的な活動指導、オンライン業界研究セミナー開催（卒業生の参加も依頼）等、就職支援体制は整備されている。 また、毎年実施内容を見直し、状況にあわせた対応を行っている。	学生のキャリアプランに沿った就職の実現を目指し、効果的な指導を実現するための情報収集を継続して実施。 説明会や採用試験の実施方法が年々変化している。学生への情報提供や指導により、変化している環境に対応できるよう支援を行う。	・就職率（民間・公務員） ・授業カリキュラム ・配付教材 ・就職ガイドブック

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。 就職内定獲得に必要な指導内容は2年間のカリキュラムの一環として組み込まれ、多くの学生の内定獲得を実現している。 卒業後も学習を継続するケースは年々増加傾向にあるが、附帯教育や大学との教育連携を踏まえた進路指導が来ている。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-17 中途退学への対応

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	70%	事業計画における最重要課題の1つとして退学率の低減に向けた取り組みが図られている。 近年、精神疾患・消去法的な進路変更で退学を余儀なくされる学生が増加している。退学の可能性がある学生の早期発見のために、教員の学生指導力（コミュニケーション能力）の向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。	ご家庭と連携した指導を実現できるように、退学の兆候が発見された段階で、ご家庭との連絡を取れるようしているが、無関心な家庭も多いのが現実。 また、友人関係の悪化・学外の友人の影響、が退学理由となるケースが多くなっており、学校内での良い友人関係の構築が非常に重要であり、各種イベントや交流機会の創出、実施時期や実施方法の見直しを行っている。	・事業計画書 ・クラス状況管理表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。ご家庭との連携精度を高め、初期段階から連携することを意識している。	特になし。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-18 学生相談

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	80%	学習フォローの時間を有効に活用し、担任教員と学生の面接を頻繁に実施、学習目標の確認や学習に関する悩み等につき対応を行っている。また、上司・部署全体での情報共有を行うことで、担任だけでなく同部署の教員が全員で対応する体制をとっている。	状況が深刻な学生は不登校傾向になるので、家庭の協力が不可欠であるが、協力を得られない・または協力頂いても登校に繋がらないケースが以前よりも増えている。	・ 学生指導記録表
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	80%	留学生の受け入れに関するアドミッションポリシーを策定している。留学生の相談に関する専任を配置し、生活支援から進路相談に至るまで体制を整備している。	留学生の相談内容は専門的かつ特殊で多様な内容を含み、担任単独での対応は難しい。相談内容を予測し、その内容の専門家を配置することが望ましい。	・ 学生指導記録表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談については、学生のシグナルを担任が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

5-19 学生生活

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	80%	試験・資格・スポーツの成績など本人の努力に報いる制度が確立されている。また、保護者・学生からの申請に基づき、学費の分割納入、延納などに応じている。	時代に沿った対応を心掛けていく。	・募集要項
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	90%	年1回、学校指定の医療機関等に依頼し、法に定められた健康診断を実施している。また、日々の出席確認で、欠席者を把握し、健康上の理由であれば、状況に合わせて医療機関での診察を勧めている。	特になし。	・健康診断お知らせ
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	60%	企業と提携し、管理人常駐の食事付寮を紹介している。また、学生マンションも紹介しており学生ニーズを満たしている。	特になし。	・寮学生マンション紹介チラシ
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	50%	学校所在地自治体等のボランティア活動を紹介している。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備し、情報提供している。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	特になし。
【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価	

5-20 保護者との連携

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	70%	欠席の多い学生、就職等厳しい学生など、問題を抱えている学生に対しては、日々の打合わせ等を通じ、管理者が状況を把握し、適宜保護者・ご家庭への連絡等の指示を行っている。また各学年において、進路説明会等を実施している。	協力的でないご家庭との連携方法が課題となっている。また、よりスムーズでタイムリーな連携を行うため、保護者等向けのポータルシステムも整備されている。教育内容・進路指導の説明会、個人面談も実施している。	・学生指導記録表 ・進路説明会 ・保護者ポータル ・ご家庭宛通知

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ご家庭への連絡については積極的に行っている。欠席があった際には小まめに連絡をすることを徹底している。必要に応じて来校していただき、面接も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しく、理解を得られないケースも年々増えているのが現状であり、家庭ごとに連携度合いが大きく異なるのが実情である。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

5-21 卒業生・社会人

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	70%	資格取得に関する卒業生割引制度。就職部による再就職支援を相談がある都度実施している。また、卒業生サイトの利用によって支援体制が整っている。	卒業生サイトを利用し、各種証明書の申込み、同窓会の案内、卒業後の就職相談等を行っている。利便性が更に増すよう機能の拡充を行う。	・大原学園ホームページ ・卒業生サイト
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	50%	卒業生の学び直しなどのニーズに対して、様々な附帯教育を設け、卒業生および社会人の学びに対する再教育プログラムの開発実施に取り組んでいる。	社会ニーズについて関連企業等から情報収集し、より効果の高いプログラムを開発する。	・学則
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	50%	附帯教育を充実させることで、社会人の様々なニーズにも対応している。 しかしながら長期委託訓練などについては、その性質上受け入れることが難しい。	通学より通信、長時間から短時間へ、隙間時間での学びに対するニーズが増えており、幅広く対応できる様、整備を進めている。社会人の学びのニーズは常に変化するため、情報収集に努める。	・学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口にお問い合わせに応じて対応している。担当教員と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。 また、大学卒業者や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

基準 6 教育環境

大項目総括

学習を進めていく中で、時代にあった教育課程を実践することが、学生または保護者の方々を満足させることになる。

そのためには、その教育課程を遂行するための教育設備ならびに学習環境を整えなければならないのは当然である。

しかし、整備をするためには資金が必要であり、その調達が容易ではない。
国や地方公共団体が、専修学校に対し大学や高等学校と同様の支援をしてくれることを希望する。

また、教育環境が整えられたとしても環境維持をしていかなければならない。それを担う人的な教育も疎かにしてはならないと考えている。

6-22 施設・設備等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
6-22-1 教育上の必要性に 十分対応した施設・設備・ 教育用具等を整備してい るか	90%	校舎の老朽化が進んでいるため、計画的 に、学校施設予防的なメンテナンスを実 施している。また、時代に合わない実習 設備は適宜入れ替えを行っている。	計画的な校舎改修計画、教育設備入れ 替えならびに予算の確保。	・なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備に関しては、全体的に老朽化が進んでいるフロアが多いため、学習活動 を支える空間として適切に補修工事を行うことと、時代にあった実習設備等の入れ替 えを進めている。今後もこの計画的な施設・設備の維持に努めたい。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	80%	実習や研修等の参加については事前に外部機関と実習内容や研修内容の打合せを行い、期間中は職員が訪問・引率し、事故やトラブルにならないように十分注意している。	実習等については実習先が異なることで、同一環境下で実習が出来ないことから、実習内容に多少ばらつきがある。 均質で教育効果の高い実習内容を提供していくためにも、企業等と連携し、実習プログラムの改訂を進めていく。	・実習および研修資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。 研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

6-24 防災・安全管理

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	80%	マニュアルを準備し、職員より各クラスで災害発生時のルール確認を実施し、災害に備えている。 備蓄品等の設置も行っており、教職員向けの講習会については、継続して実施している。	行政からの指示も含め、現状に合わせた防災マニュアル変更を適宜行う。また、教職員向け初動訓練や救命講習などの研修は今後も継続して実施する必要がある。	・防災マニュアル
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	80%	一般的な火災保険や設備保険は勿論のこと、行事および実習時の保険加入・緊急連絡体制などが整えられている。	地震保険など更なる災害に対しての保険加入を検討する。 学校校舎・設備、周辺状況に応じ、学校安全対応マニュアルの策定を検討する。	・加入契約書 ・連絡体制書類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保険等の加入については十分なものになっているが、それ以外の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。	

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括

18歳人口減少の中、教育成果を学生募集活動に繋げられるよう工夫を凝らし、維持発展を続けている。
その中で、世の中に出てから役に立つ、教育カリキュラムと施設・設備を整え、学生のみならず保護者等の方々が満足する教育が準備できている。
これらのことをしっかり伝えられるように、学生および保護者等対応を準備し、正しい進路選択ができるように学生募集を行う。

7-25 学生募集活動

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	80%	学生および保護者等が入学判断に必要な情報を入手出来る様、正確な情報をHP や学校案内で公開し、進学相談会やオープンキャンパス等でさらに詳細な説明を行っている。	特になし。	・入学案内パンフレット ・募集要項 ・大原学園ホームページ
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	80%	入学判断に必要な学校案内を目的別に制作している。また、応募に際して詳細内容が書かれている募集要項や学校独自のホームページがある。	特になし。	・入学案内パンフレット ・募集要項 ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
将来を意識した学生および保護者等に対して、的確な情報を伝え、進路選択についてミスマッチを予防したい。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

7-26 入学選考

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	80%	年度ごとに基準確認を行い、統一を図っている。書類選考に加え一部の入学生には面接選考を行い、入学生と希望コースのミスマッチを防ぐよう努めている。	特になし。	・募集要項 ・アドミッションポリシー
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	70%	入学選考時の学生情報を一元管理している。書類選考に加え一部の入学生には面接選考を行い、入学生と希望コースのミスマッチを防ぐよう努めている。また管理者による入学時選考の情報は、学内で共有されている。	特殊事情については、入学後の指導上の情報として必要なケース、入学後に配慮が必要なケースもあるので、適切に管理している。	・学生情報データ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。	特になし。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

7-27 学納金

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	算定している	教育経費を積算して学費の算定しており、毎年金額を検証して適宜学費改定も行っている。また、同分野の専門学校の状況も踏まえ、妥当な金額になっている。	特になし。	・学校案内 ・募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	行っている	平成 18 年度文部科学省告示の趣旨に沿って適正に処理されている。また、3 月 31 日までの入学辞退希望者に対しては、入学金を除いた授業料等の金額を返金する旨を募集要項へ記載している。	特になし。	・募集要項 ・学費返還規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

基準 8 財務

大項目総括

予算計画は理事会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっている。

また、予算の執行は運営会議により定期的に状況の確認が行われている。

このように、予算の計画と執行は適切に行われているが、予算執行に関する規程はなく、今後の課題である。

旧私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査および会計監査を受け、学園運営が法令または寄付行為への遵守性が確保されるように努めている。

また、私立学校振興助成法第14条3項による公認会計士による会計監査も受け、財務の適正性をさらに高い次元で確保している。

さらに、財務部門から独立した立場である内部監査室を設け、監事監査および外部監査と連携を取り、学園の財務の適正性を日常レベルから確保するようにしている。

現在、学園の財務情報は大原学園ホームページでの閲覧が可能となっており、且つ学校ごとの財務情報は閲覧請求に応じて、提供可能な状態である。

8-28 財務基盤

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	安定している	学生募集は安定した状態で推移しており、コスト抑制の効果も相まって安定的な学校経営ができています。	特になし。	・事業活動収支計算書等の財務資料 ・理事会資料 ・評議員会資料
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	行っている	財務部で主要な財務数値は月次・年次の把握分析がなされ、理事会・評議員会で確認されている。	特になし。	・事業活動収支計算書等の財務資料 ・理事会資料 ・評議員会資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては良好であり、財務基盤は安定している。キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	全国に多数の学校を設置している学校法人であるが、法人全体でも財務基盤は安定している。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

8-29 予算・収支計画

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	策定している	予算は本部・学校ごとの教育目標・業務計画に基づき作成され、財務部で整合性等のチェック後に理事会での承認が行われている。	特になし。	・ 予算計画書 ・ 理事会決議録
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	行っている	執行は本部・学校ごとの運営会議で決済者の承認の下で適正に行われている。	年度ごとに予算を立てて執行しているが、予算および執行に関する規程はないので今後準備をする。	・ 予算計画書 ・ 運営会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	予算編成に当たっては、教育効果・学生満足度の向上に主眼を置き、教育現場の意見を大きく反映している。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

8-30 監査

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	実施している	教育機関の公益性を重視し、監事による監査とともに、内部および外部の会計監査人による監査を適切に実施している。 その際の責任体制は監査契約書に明記してある。また、実施スケジュールは外部会計監査人とともに過去の監査実績を踏まえて作成している。	特になし。	・ 監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	令和7年度決算以降は、令和7年4月に施行された改正私立学校法に基づいた監査体制を整え、実施する必要がある。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

8-31 財務情報の公開

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	70%	学園の情報公開規定に基づき、財務諸表のうち、事業活動収支計算書・貸借対照表等に関しては各校への申請書提出で閲覧可能であり、学園のホームページにも掲載している。	今後は、情報公開の趣旨を踏まえ、さらに多くの情報を公開できる仕組みを構築する。	・ 大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	学校ごとの財務情報は要求に応じて、提供可能な状態である。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

基準 9 法令等の遵守

大項目総括

学校教育法、専修学校設置基準などの関連法令に基づき、学校法人の寄附行為に則り、適切な運営がされており、諸規則集や学則等の文書化を通じて教職員への周知が計られている。

個人情報の保護については、平成16年から開始した情報セキュリティ活動の一環として、全面施行の平成18年4月からはプライバシーポリシーを掲げて個人情報保護法の遵守をしている。また、情報セキュリティ委員会が中心となり、運用監査と新たな安全管理措置の追加が行われている。

自己点検・評価は今後も継続して実施していく方針である。また、問題点の改善は点検・評価の結果を踏まえ、重点項目を挙げて取り組んでいる。さらに規程類も実施状況や法令などを考慮して実効性の高いものとしていく。

自己点検・評価報告書は、申請による印刷物の閲覧と大原学園ホームページでの閲覧があるが、その閲覧範囲に制限はない。

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	90%	学園本部がリーダーシップをとり、規程や届出書の変更を適切に行っている。また、教職員は入社時に、学生は入学時に法令遵守の研修や講演会を受けている。	今後は教職員とともに学生に対しても定期的・継続的に実施できるよう検討する。	・ 諸規則集 ・ 学則 ・ 各種届出書 ・ 研修資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制をとっており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

9-33 個人情報保護

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	80%	個人情報保護のため情報セキュリティの一環として規程が存在し、個人情報保護法の安全管理措置を中心に保護対策を実施している。また、入社時に教職員に対して規程の遵守を徹底している。 更には、簡易的に現況を把握できる「情報セキュリティマネジメントセルフ点検シート」を導入し、安全管理体制の改善の基礎としている。	安全管理措置をさらに強化する。 また、各部署や教職員に対して継続的かつ定期的に現況・意識調査を行い、希薄化しないようにする。	・情報セキュリティポリシー ・プライバシーポリシー

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	全ての学校で情報セキュリティの一環として個人情報保護に努めている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

9-34 学校評価

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	行っている	自己点検・評価は毎年実施しており、改善活動は重点項目を挙げ、校長の管轄下で行われている。	改善の実施を確認し、報告書として提出する。	・自己点検・評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	公表している	自己点検・評価報告書は教職員、その他関係者の申請により閲覧が可能で、その範囲は全項目となっている。また、大原学園ホームページにも掲載している。	特になし。	・自己点検・評価報告書 ・大原学園ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	行っている	年1回学校関係者評価委員会を開催している。	継続実施することでより良い学校運営に取り組んでいく。	・自己点検・評価報告書 ・学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	公表している	学校関係者評価報告書は大原学園ホームページに掲載して公表している。	特になし。	・自己点検・評価報告書 ・学校関係者評価報告書 ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。 外部者による学校関係者評価は行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

9-35 教育情報の公開

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-35-1 教育情報に関する 情報公開を積極的に行っ ているか	70%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームペ ージに掲載し、より見易くするため段階を 追って整備計画（リニューアル）している が、未だ教職員に関する情報はその対象と なっていない。	情報公開の内容と方法については今後 も継続して改善を進めていく。	・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する 情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めて いく。	設置する学校数が非常に多いため、学校ごとに分かりやすい公 開方法が必要となる。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括

大原の教育は社会的に一定の評価を頂いている。その中には幅広い年齢層に対し、様々な教育サービスを提供している附帯教育事業や留学生のための学校も含まれている。

これらの教育における社会貢献について、さらに充実を図るとともに、今後は地域への貢献や世界規模での貢献も積極的に視野に入れ、広い意味での人格教育として展開を進めていきたい。

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	60%	生涯学習事業や附帯教育事業を通じて、幅広い年齢層に対して教育サービスの提供を行っている。通信講座も幅広く展開している。 また、地域行事やボランティアにも参加している。	今後は、年齢を問わず、新たなキャリア教育の実施を検討していきたい。	・パンフレット
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	50%	同校の学科には留学生は在籍していないが、隣接する学校に留学生が在籍しており、行事・イベント等で交流を深めている。	特になし。	・入学案内パンフレット ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのもも提供したいと考えている。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

10-37 ボランティア活動

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	50%	地方自治体、民間問わず、学校に案内のあったボランティア募集について、適宜学生に情報提供を行っている。	ボランティア活動の活動支援のための業務の効率化が課題。	・ 事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地方自治体、民間問わず、学校に案内のあったボランティア募集を大原ポータルシステムにて配信し、在校生は適宜閲覧できるようにしている。恵支援活動は十分に行っているが、学生のボランティア活動の個別把握については手法について課題がある。	特になし。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価